

音楽科学習指導案

日 時 平成28年6月2日(木) 公開授業 I
学 級 岩手大学教育学部附属中学校
1年C組40名
会 場 音楽室
授業者 赤坂裕子

1 題材名

「豊かに音楽表現しよう」

(『ふるさと』(高野辰之 作詞 岡野貞一 作曲 黒部美樹 編曲))

2 題材について

(1) 生徒観

歌うことに意欲的に取り組む生徒たちである。入学後に行ったアンケートでも、多くの生徒が「音楽の授業が好き。」または、「まあまあ好き。」と答え、そのほとんどが、歌うことが好きとしている。授業においても、正しい音程で歌うことやフレーズを大きくとらえ抑揚をつけて歌うこと、楽譜に書かれた音楽記号などを理解して歌うことなど、小学校でより質の高い学びを得ていることが見て取れる。

中学校では、小学校での学びを土台として、歌詞や楽曲の特徴を生かしてより豊かな音楽表現を自分たちで探求していく力を身に付けさせたい。また、豊かな音楽表現を探求していく過程では、お互いの音楽表現や言葉を「聴き合う」活動は欠かすことができない。本題材では、聴くことと表現することを繰り返していく活動を行い、それらの活動の大切さを生徒に気付かせたい。そして、本題材で学んだことが今後の音楽活動にスパイラルに生かされていくことを期待する。

(2) 題材観

本題材は、学習指導要領【第1学年】A表現の(1)歌唱の活動を通して指導する事項である。「声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。」と共通事項「音色、リズム、旋律、テクスチャ、強弱」にかかわる学習を中心としている。

教材として扱う『ふるさと』は、小学校の共通教材『ふるさと』を混声合唱として編曲したものであり、生徒がよく知っている旋律に、間奏として親しみやすい2声のヴォカリーズが加えられている。前半の歌詞がある旋律は、小学校での学びを生かし、生徒全員がのびのびと歌うことができるとともに、速度表示や強弱記号などの表現にかかわる基本事項を確認することができる。また、間奏部分は、女声と男声の2声で歌われ、混声合唱の豊かな響きが味わえるとともに、男声から女声へと旋律の受け渡し、フレーズの終わりの音が和声的であることなどから声部の役割を感じ取りながら歌うことができる魅力的な編曲となっている。

本題材における、聴いたり表現したりする活動を通して声部の役割を感じ取り、感じ取ったことを生かして歌い方を工夫する学習が、今後の音楽活動の様々な場面で生かされていくことを期待する。

(3) 音楽科における学びの本質について

学習指導要領において、音楽科の目標は、表現および鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。」と示されている。中でも、「音楽活動の基礎的な能力」について、学習指導要領では、「音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受けること」が、すべての音楽活

動の支えとなるもっとも基礎的な能力と示している。

これらのことを受けて、本校音楽科では、学びの本質を、音や音楽からよさや美しさを感じ取ること（知覚・感受）、また、感じ取ったことを音楽表現することにあると捉えた。生徒自身が、課題に対して、どのように考えて、どう判断・表現したのか、というプロセスを自覚すると共に、授業を通して学んだことを実感し、学んだことや身に付けた力をスパイラルに生かすことができるような生徒を育成していきたい。

3 題材の指導目標および評価規準

(1) 指導目標

声部の役割や全体の響きを感じ取り、楽曲にふさわしい音楽表現を工夫する。

(2) 題材の評価規準

＜観点1＞ 音楽への関心・意欲・態度	＜観点2＞ 音楽表現の創意工夫	＜観点3＞ 音楽表現の技能
・声部の役割や全体の響きを感じ取り、音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組んでいる。	・音楽を形づくっている要素（音色、リズム、旋律、テクスチャ、強弱など）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。 ・知覚、感受したことを生かして音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	・声部の役割や全体の響きとのかかわりを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。

4 題材の指導計画および評価規準（本時2／3）

時	学 習 活 動	評価規準
1	○楽曲と出会う ・『ふるさと』のAの部分の主旋律を全員で歌う。 ・歌詞の内容、拍子、速度、音符の長さ、クレッシェンドやデクレッシェンドなどの音楽記号の意味、楽曲の構造などを復習する。 ・『ふるさと』について、歌詞を階名（移動ド唱法）に変えて、音程の感覚や旋律の流れ等をつかむ。 ○楽曲の変化を感じ取る ・『ふるさと』のBの部分について、各声部を階名（移動ド唱法）で歌って旋律を覚える。 ・2声を合わせて歌い、全体の雰囲気をつかむ。 ○次時の学習課題を確認する。	＜観点1＞
本 時	○振り返り ・全体で歌唱をしたあと、学習課題を確認する。 ＜声部の役割を考え、表現を工夫して歌おう＞ ・大譜表を用いながら、混声と同声の合唱の響きの違いを比較し、混声ならではの豊かな響きを感じ取る。 ・女声と男声の声部の違いがどんなところにあるのか、それぞれの旋律を聴くこと、楽譜を見て比較することなどから感じ取ったり、考えたりする。⇒特徴的な部分などに付箋をはり、どんな違いがあって、それがどんな役割を持つのか、一人ひとりが考えて記入する。 ・声部の違いから、どんな役割も持つのか意見を交流し合い、考えを	＜観点1＞ ＜観点2＞

	共有・深化させる。 ＜ポイント＞ <u>女声と男声で、どちらが主旋律になるのか考えさせられる場所</u> ⇒リズムパターンを変えて歌うなどして考えを深める。 ・声部の役割を生かし、Bの部分について通して歌う。 ・学習シートに、声部の役割を考える視点となったのは、音楽のどういうところだったのかをまとめる。	
3	○振り返り ・前時で考えた声部の役割について、実際にどういう歌い方をしたらよいかを試行錯誤する。 ・題材のまとめとして、A（1番）⇒B⇒A（2番）で通して歌い、学んだことを発表し合う。	<観点3>

5 本時について

(1) 指導目標

歌うことや聴くことを通して声部の役割を感じ取り、思いや意図をもって音楽表現を工夫しながら合わせて歌う。

(2) 評価規準

観 点	「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント
<観点1>	声部の役割を考えたり、音楽表現を工夫したりする学習に主体的に取り組んでいる。
<観点2>	音楽を形づくっている要素（音色、リズム、テクスチャなど）とその働きを知覚・感受しながら、音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

(3) 本時の構想

本時は、『ふるさと』のBの部分について、聴く活動と歌う活動とを繰り返しながら、気付き感じたことをもとに声部の役割を考える学習が中心であり、学習課題を「声部の役割を考え、表現を工夫して歌おう」とする。

本時の展開部分の最初に、ト音記号だけでなく、ヘ音記号の楽譜への理解も深め、大譜表に書かれた音符を視覚的に確認しながら実際に歌ってみることにより、混声合唱ならではの充実した響きを味わわせたい。また、男子の半数は変声期にさしかかり、正しい音程で歌うことに不安を持っている実態にも配慮が必要であると考え。そこで、ヘ音記号の楽譜を見ながら歌う際は、ヘ音記号の音域で歌える男子生徒の声を聴いたり、変声期前の男子とアルトの女子が実験的に一緒に男声パートを歌ってみたりして聴き合うことにより、混声の響きの特徴を知り、その魅力を味わわせるようにしたい。

次に、女声と男声との違いに注目させ、それがどんな役割をもつのか、歌ったり聴いたりする活動を通して声部の役割について考え、学習課題に迫っていきたい。その際には、ワークシートの楽譜上に、気付き考えたことを付箋に記入させ、その旋律の場所にはることで、一人ひとりに考えを持たせるようにしたい。さらに、意見交流をすることにより、様々な視点から声部の役割について考えを深め、自分が歌う声部に思いや意図をもって歌うことができるようにしたい。

歌うことが好きで、日頃から歌うことに意欲的に取り組んでいる生徒たちであるが、中学校では、お互いの音を意識的に聴き合う、聴き比べるという機会は少なかった。本時では、聴くことを意識させ、それをもとに声部の役割について考え、思いや意図をもって音楽表現を工夫していくように導きたい。そして、授業の終末では、学習を振り返り、新たに発見したことや考えたことなどをまとめさせたい。

6 本時の展開

段階	学習活動および学習内容	時間 (分)	学びの本質とのかかわり
導入	<p>1 『ふるさと』を歌唱する。 Aは歌詞で主旋律のみを全員で斉唱。 Bはそれぞれの声部を階名（移動ド）で歌い合唱。 ・学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>声部の役割を考え、表現を工夫して歌おう。</p> </div>	8	
展開	<p>2 課題に迫る。</p> <p>①混声と同声の合唱の響きを聴いたり歌ったりして比較し、混声ならではの充実した響きを感じ取る。 ＜大譜表を用いる＞</p> <p>②女声と男声で違っているのは何か、また、どんな役割があるのかをBを全体で歌ったり、それぞれの旋律を聴いたりして確認する。 ＜付箋を用いて、ワークシート上に記録していく＞</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto;"> <p>[予想される生徒の反応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音色・・・男声はどっしりとした安定感がある。 ・音程・・・女声は高く、男声は低い。幅があり、音楽の広がりを感じる。 ・リズムのずれ・・・のばしている時に、細かく動く。 ⇒主旋律を飾る、引き立てる。 ・男声の旋律と女声の旋律が足して一つになる。 ⇒橋渡しの役割をもつ。 </div> <p>③ 気付き考えたことを交流し合う。 *意見を出し合い、考えを共有・深化させる。</p> <p>3 感じ取ったことや考えたことを生かして、Bの旋律を通して歌う。</p>	37	<p>■混声合唱ならではの充実した響きを感じ取る。 (知覚・感受)</p> <p>■聴いたり歌ったりして旋律を味わう。 (知覚・感受)</p> <p>■聴いたり歌ったり、他者と意見交流したりする中で、音楽に対する価値を深化、再構築させる。 (思考力・判断力)</p> <p>■声部の役割を考え、表現を工夫して歌う。 (思考力・判断力・表現力)</p>
終末	<p>4 学習を振り返り、聴いたり歌ったり（他者の意見を聴くことも含む）する活動の中で、新たに発見したことや考えたことについてワークシートに記入し、発表し合う。</p>	5	<p>■学習を振り返り、学びのメタ認知を図る。</p>